

第八十六回六甲会（令和八年六月五日）

稲畑廣太郎選

兼題「山椒魚・若竹」その他当季雑詠

第一句会入選句

はんざきのひねもす岩になりきりて	池本準一	○青空にあをき風解く今年竹	吉田知子
川底の山椒魚の大欠伸	前出公子	若竹の小路を抜けて落柿舎へ	中本 宙
はんざきや今昔見つめ水の黙	武本満子	揺ぎなし地球の鼓動山椒魚	一坪信舟
若竹や梢揺らして風渡る	橋本 夕	節白き光に透けて今年竹	足立朱麻
○居る気配消えて石なる山椒魚	伴 明子	若竹や乗馬倶楽部の赤き屋根	奥野千草
青空や山椒魚の目の上に	北上美佐子	今年竹風が縛れし糸解く	三好ようこ
乙訓の風澁刺と今年竹	山之口倫子	若竹にならず食すも人の道	小川孝子
水源の湧きいづる闇山椒魚	足立朱麻	若竹の下より上へ伸ぶる風	谷本房子
はんざきのぬるり安穩父卒寿	武本満子	○山椒魚水音山気を友として	金田八江子
○地の恵み天の張力今年竹	池本準一	今年竹無限大なる子等の夢	森岡喜恵子
はんざきの不動の奥にある矜持	吉川博子	山椒魚唐揚げにして酒の友	芳林淳子
若竹の伸びゆく音の聞こゆる朝	前出公子	京浪速つなぐ若竹天王山	徳岡美祢子
咆哮の虎にも怖ぢぬ山椒魚	山之口倫子	落武者の眠るせせらぎ山椒魚	藤田敦雄
見みるとも視線あはさぬ山椒魚	鈴木千恵	若竹に日差纏はり風遊び	金田八江子
けがれなき袴脱ぎ捨て今年竹	一坪信舟	山椒魚神代の水を知つてをり	奥野千草
日のしづく撒いて散らして今年竹	鈴木千恵	若竹に美男すつくと立ちにけり	三好ようこ
○はんざきの孤独や見る人の孤独	北上美佐子	欠伸とも威嚇とも見ゆ山椒魚	藤田敦雄
億年の影をひきずり山椒魚	多田羅紀子	○はんざきはたましひ鎮め身を沈め	岡本やすし
茶筌茶杓若竹にある未来かな	石角節子	若竹や十二単に数足らぬ	高橋英士
若竹をいたぶる雨の弾きかな	一坪信舟	動かないはんざき水に息をする	森岡喜恵子
山椒魚水のリズムにまどろみぬ	池本準一	若竹の径を走る人力車	谷本房子
若竹や挫折も糧にまつすと	武本満子	今年竹けふの命の伸びゆける	山村千恵子
そよ風に影のきよらか今年竹	吉川博子	若竹の伸びゆく隙も風の生れ	徳岡美祢子
若竹のてつぺん空をかき回す	北上美佐子	若竹や醸す池畔の靄流れ	藤田敦雄
○若竹や大志抱きて天を衝く	鈴木千恵	山椒魚地球の歩み知つてをり	森岡喜恵子
まどろみて浄土夢見る山椒魚	武本満子	若竹の鋭利を宙に伸ばしけり	吉田知子
若竹の一本気なる戦ぎかな	橋本 夕	○今年竹一日分の丈そよぐ	山村千恵子
若竹の色のすきまを風のをを	奥田好子	山椒魚千古の闇を率ゐたる	多田羅紀子
身をよぢり化石の如し山椒魚	鈴木千恵	自らの大きさを知らぬ山椒魚	大月浩子
岩と化す山椒魚の黒目かな	一坪信舟	我思ふ故に我あり山椒魚	中本 宙
若竹の音する様に伸びにけり	前出公子	◇ ◇	
水槽の山椒魚の黒目勝ち	前出美千子	(廣太郎先生出句)	
若竹や子は初ヒット初打点	前出公子	方舟の隅に山椒魚鎮座	
若竹の節より淡き光さす	河辺さち子	今年竹戦ぐ高さとなる早さ	
帰りには居場所替へゐし山椒魚	松村咲子	若竹に山気靈氣と変はりゆく	
若竹や日の煌めきの滑り来る	長安悦子	一山を押し潰したる今年竹	
○百年の一睡に覚む山椒魚	河辺さち子	はんざきの天地創造見て来し目	
	山之口倫子		

第二句会入選句

若竹のそよぐ明るさやはらかに
動かざる山椒魚の水の色
若竹や風に葉先のビブラート
若竹や老いに妬心のやうなもの
みどり児の重たくなりし今年竹
拡大し知るはんざきの目の在処
○天をつく若竹光る星の闇
○山椒魚魔界の王の使者として
しなりては大風いなす今年竹
抜きん出る若竹美しき売家かな
一村の十戸に足らず今年竹
○立ち直る早さも雨後の今年竹
大雨の度に山椒魚案ず
透きとほる浅みどり葉は今年竹
山青き木霊を統ぶる今年竹
未来とは繋ぎ行くもの今年竹
若竹の素直に伸びて空つかむ
朝光に萌黄きらめく今年竹
泡ひとつ吐き川底へ山椒魚
はんざきははてなはてなの進化論
若竹の葉擦れの音に洗はるる
○敵のなき山椒魚の水静か
光りきて光りかへして今年竹
竹林の風新しき今年竹
童顔のはんざき面長の女将
○歟のあと頭上空へ今年竹
今年竹撓める丈と風明かす
水動く山椒魚の顔ばかり
○若竹の恐れを知らぬ早さかな
若竹のひかりの中を人力車
若竹や甘く鋭き萌黄色
そこだけに光差すこと今年竹
○はんざきや夜は河童とひそひそと
一夜さの雨に一気の今年竹
若竹の風に細波ビブラート
一目見て一足さがる山椒魚
山椒魚世俗忘れて動かざる
親元を離れて青し今年竹
はんざきの住む水静か峡の宿

田中由子
本郷桂子
南波喜久子
前田容宏
田附光映
宮地若木
奥山登志行
玉手のり子
槌橋眞美
小柴智子
生澤瑛子
本郷桂子
高橋純子
新田佐代子
奥山登志行
玉手のり子
田村恵津子
槌橋眞美
宮地若木
小柴智子
高橋純子
本郷桂子
林 曜子
高野さち
大西誉子
荒川ともゑ
北井真有美
西村みどり
宮地若木
藤井啓子
高木雅恵
近藤六健
藤井啓子
前田容宏
奥山登志行
細田清子
新田佐代子
宮地若木
槌橋眞美

み吉野の岩場をのぼる山椒魚

はんざきの洞に太古の星明り

○夜は星の泡を食みて山椒魚

清流を命の糧に山椒魚

金明といふ明るさに今年竹

はんざきや岩の下よりのたり出づ

○若竹の青き艶より青き声

若竹の風走り山裾に住む

はんざきや主顔して水底に

天空をまだ掴めずに今年竹

透き通る水に終日山椒魚

若竹のみなぐる命ぐんと伸び

○若竹も恋もこれより育つもの

嵯峨野路の風匂ひ立つ今年竹

足許の岩がはんざきなりしこと

芳しき命の香り今年竹

◇ ◇

(廣太郎先生出句)

今年竹未来指差すクラーク像

はんざきの口中黄泉を吸ひ込める

山椒魚泥一と震へして現るる

星の使者姫を宿して今年竹

神の手の引つ張り上げて今年竹

田附光映

小柴智子

玉手のり子

高野さち

田中由子

南波喜久子

高野さち

平田 恵

田中由子

田附光映

北井真有美

新田佐代子

玉手のり子

本郷桂子

藤井啓子

近藤六健

◎次回第87回六甲会は令和8年9月4日(金)開催です。
兼題 秋の灯・根釣